

株主のみなさまへ

2001年度

事業報告書

2001年4月1日から

2002年3月31日まで



株式会社 ハーモニック・ドライブ・システムズ

ごあいさつ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当社の2001年度（2001年4月1日から2002年3月31日まで）の決算を行いましたので、ご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、企業収益の悪化により民間設備投資が一段と縮小しました。また、厳しい雇用情勢や景気先行き不安の影響を受けて個人消費も低迷を続けるなど不況色が強まる中、経済活性化対策にも進展が見えず、デフレが進行する深刻な状況となりました。

当社事業を取り巻く環境につきましても、企業の全般的な設備投資の削減による需要減のほか、世界的なIT不況により、主要用途先である国内の半導体・液晶製造装置関連での需要が激減しました。また、輸出環境も世界的な経済減速の影響を受けて需要が減少し、とりわけ、半導体製造装置関連の多い米国向け需要は著しく減少しました。

このような状況のもとで、当社は新たな製品の投入と顧客要求に密着した営業活動をきめ細かく展開する一方、経費の削減にも努めましたが、前期比大幅な減収、減益を余儀なくされました。

この結果、受注総額は69億41百万円（前期比49.1%減）、売上総額は77億18百万円（前期比43.1%減）となりました。輸出売上高は16億79百万円（前期比33.3%減）で売上高輸出比率は21.8%でありました。

損益面につきましては、米国子会社からの配当金1億32百万円を計上しましたが、売上高の大幅な減少により、経常利益は1億41百万円（前期比95.5%減）となりました。特別損失として退職給付会計基準変更時差異の当期償却分1億14百万円のほか、投資有価証券評価損2億33百万円を計上したこと等により、税引前当期損失は2億19百万円（前期は税引前当期利益30億59百万円）となり、当期損失は1億79百万円（前期は当期利益17億51百万円）となりました。

連結決算ベースでも前期比大幅な減収、減益となり連結当期売上高は83億26百万円（前期比40.5%減）、連結当期純損失は3億円（前期は連結当期純利益18億62百万円）となりました。

このような状況でありますので、利益配当金につきまして

は、1株につき1,000円（通期の配当金は2,000円）とし、配当は継続することとなりました。

今後の経済見通しは、依然として厳しく、また、半導体・液晶製造装置関連需要の本格的回復には時間を要するものと予想されます。

当社は、全社的な業務革新を目指して2001年7月1日より実用稼働に入った経営情報管理システムの活用を通じて、直接及び間接部門の無駄を省き、徹底的納期短縮とコストの削減に取り組み、厳しい経営環境下でも安定した収益を確保すべく、体質の改善を図ってまいります。

また、当社は市場と密接に連携し、高品質で高付加価値製品の開発により、新たな市場を獲得するように努めてまいります。高い位置決め精度、低振動、低騒音などの厳しい性能要求に対応するため、加工技術・技能・計測技術の大幅な向上を達成すべく、穂高工場敷地内に精密生産技術を研究するための研究棟を建設いたしました。今後は、この研究棟を活用し、将来市場を見据えた次世代製品の開発を進めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも倍旧のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

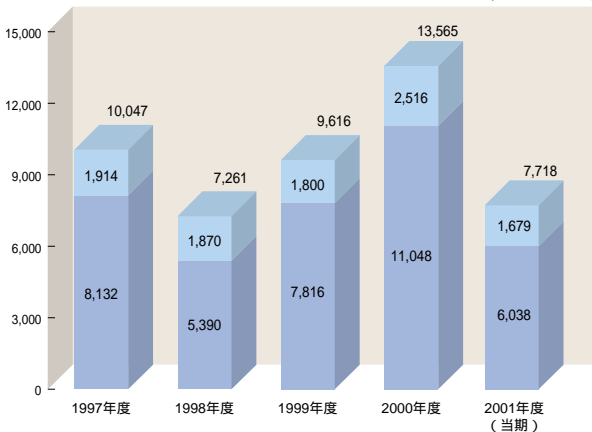
2002年6月

代表取締役社長 伊藤 光昌

業績の推移

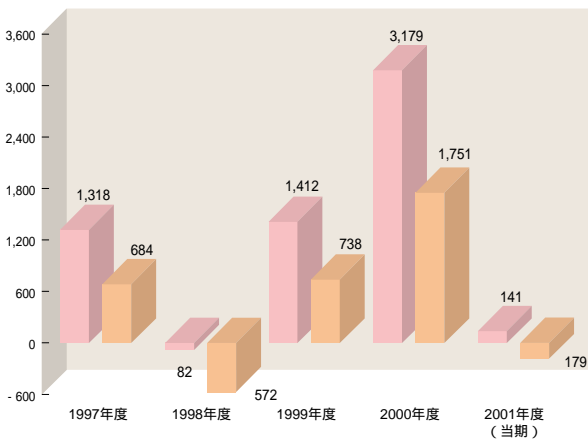
売上高 (■ 輸出 ■ 国内)

(単位：百万円)

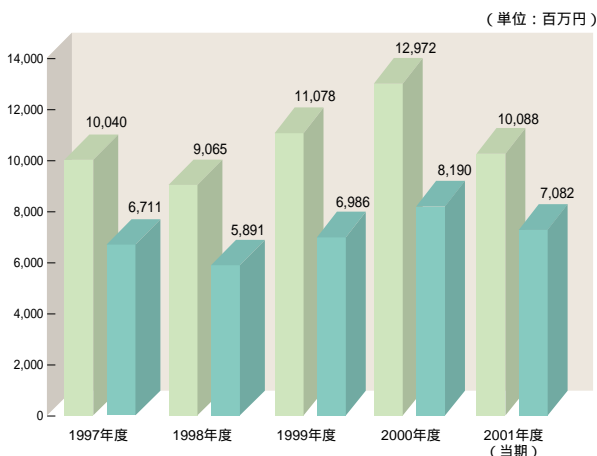


■ 経常利益 ■ 当期利益

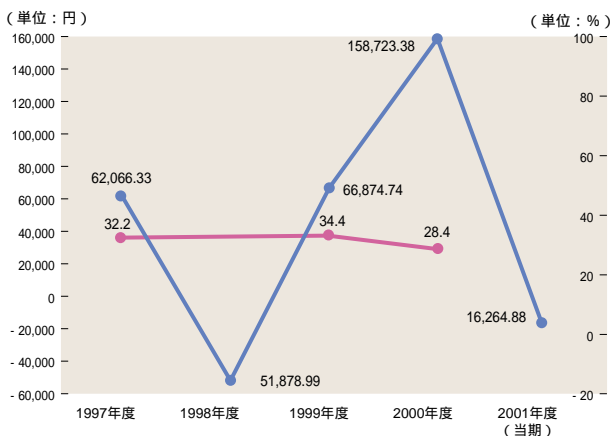
(単位：百万円)



■ 総資産 ■ 純資産



— 1株当たり当期利益 — 配当性向

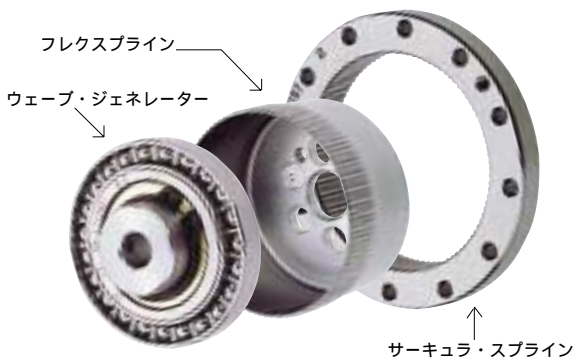


- (注) 1. 1998年度および2001年度は当期損失につき、配当性向は表示していません。
 2. 1株当たり当期利益又は当期損失()は、1998年度からは期中平均発行済株式総数により計算し、2001年度(当期)については発行済株式総数から自己株式を控除した期中平均株式数により計算しております。

ハーモニックドライブとは

技術の新紀元へ

（ 弾性力学を応用した画期的な発
明に接し、その可能性を確信。 ）



ハーモニックドライブはユニークな原理の歯車です。従来の歯車と異なり金属のたわみ、弾性力学を応用したもので、米国のマッサー氏によって生み出されたものです。

氏は、専門の機械工学の分野を超え、物理・化学・生物など広範囲にわたり数多くの特許を所有する天才発明家です。ハーモニックドライブのアイデアは氏が学会で他の研究者と「テコの原理」について討論している際に、突如ひらめいたものといわれます。

この革命的な発明との出会いから、当社は、より高精度、高トルクかつコンパクトなハーモニックドライブを求めて技術的な研究を重ねてきました。下図はコンパクト化への歩みであります。この蓄積した技術をもとにモーションコントロールの可能性をさらに追求してゆきます。



～1991年

1992年～

最新超偏平型

主要製品

HarmonicDrive®

わずか3点の基本部品から構成されているハーモニックドライブは、金属の弾性（たわみ）を歯車に応用した機構により、精密な位置決めが可能な減速機です。お客様のニーズに対応した多種多様なハーモニックドライブを製造・販売しております。



CSFシリーズ



SHFシリーズ

AccuDrive®

当社が培ってきた精密加工技術と、コンパクト・高トルク・高精度を実現した開発技術によって生まれた、遊星歯車減速機です。ハーモニックプラネタリは、その構造が創造的であると評価され、精密工学会技術賞を受賞いたしました。



ハーモニックプラネタリ

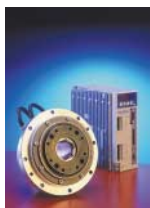


HP/CP Aシリーズ

MECHATRONICS

Fine Mechanics & Motion Control

モーションコントロールの視点から、減速機・軸受・モータ・センサーなどを最適に組み合わせた使い勝手の良い高性能アクチュエータとそれをコントロールする制御機器を製造・販売しております。



FH-2000シリーズ
HAシリーズ



光学スキャナ
LSAシリーズ

用途

ロボット



LCD検査装置



医療機器



電子顕微鏡



三次元測定器



宇宙開発



工作機械 / 木工機械



半導体製造機器



トピックス

第3回ハーモニックドライブ国際シンポジウム開催

当社穂高工場に近い長野県松本市において、当社製品ユーザー、大学・研究機関の研究者・技術者をお招きして、「モーションコントロール」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは概ね5年の周期で開催しており、第3回目となる今回は、社団法人日本機械学会北陸信越支部殿の協賛を得て、より社会的な認知度が上がった会議となりました。

岩手県立大学長 西澤潤一先生の記念講演をはじめ、海外招待講演7件、国内招待講演5件、当社研究・開発発表4件が行われ、国際的に注目されている商品・研究に関する講演および討議が行われました。

ハーモニックドライブが国際的・宇宙的なステージで活用されていること、そして今後もその活躍の場は広がっていくことを確信させるシンポジウムでありました。



トピックス

新製品の発売開始

6年前に発足した「未来事業本部」にて研究・開発を行ってきた製品を、新製品として発売いたしました。

未来事業本部は、トータルモーションコントロールの視点から、既存製品の枠組みにとらわれることなく、次世代製品の開発を推進してまいりました。こうした取り組みを経て、以下の2製品を市場投入することになりました。

Harmonicsyn[®]

アブソリュート角度センサシステム MITシリーズ

モーションコントロールを行う上で、センサーは不可欠な構成要素です。当社では、回転角度を絶対角度として検出する高性能センサーを発売しました。

システム構築の容易さ、高信頼性、長寿命、高分解能が大きな特徴です。

【主な用途】

各種計測システム・実験装置
生産技術設備・自動機械など
信頼性・耐久性が必要な各種産業機械

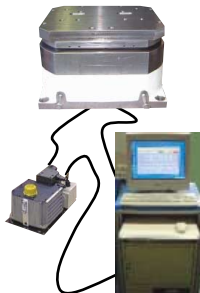


自動センタリングシステム ACSシリーズ

各種工作機械に搭載し、X・Y・Z方向に精密駆動することにより、クランプ付高精度心出しが短時間に行えるテーブルを発売しました。サーボ、センサー、クランプ機構などの各種技術の融合により生まれた製品です。

【主な用途】

精密樹脂金型加工機へのパイスタッキング位置出し
縦形研削盤の心出し
ホブ盤、ギアシェーパーの心出し



人とのハーモニー



ハーモニックコンサート

当社の「ハーモニックコンサート」は2001年度で第19回目を迎えました。例年通り、長野県豊科町公民館において、辛島輝治氏、大野総一郎氏、広田智之氏、高橋知己氏、岡崎耕治氏による「モーツァルト及びベートーベンのピアノ・オーボエ・クラリネット・ホルン・ファゴットの為の5重奏曲」が演奏され、会場満員の聴衆を魅了しました。

ハーモニックコンサート（最近分）

第15回	漆原啓子（ヴァイオリン） 菅原博文（チェロ） 辛島輝治（ピアノ）コンサート
第16回	徳永二男（ヴァイオリン） 練木繁夫（ピアノ）コンサート
第17回	藤村佑子ピアノリサイタル
第18回	創立30周年記念コンサート 白井光子（メゾソプラノ） クリストフ・ブレガルディエン（テノール） ハムトムート・ヘル（ピアノ）
第19回	辛島輝治（ピアノ） 大野総一郎（ホルン） 広田智之（オーボエ） 高橋知己（クラリネット） 岡崎耕治（ファゴット）コンサート

敬称略

ハーモニック講演会

ハーモニック講演会は、2001年度で第6回目となり、今回は東海大学教授 唐津 一先生をお招きし、松本市のホテルを会場に、【「ものづくり」こそ、日本を救う】をテーマとして講演いただきました。

尚、コンサート・講演会ともに、例年通り収益金は小・中学校の図書購入費として、豊科町、穂高町に寄贈しました。

ハーモニック講演会

第1回	宮本 輝（芥川賞受賞作家）
第2回	西澤潤一（岩手県立大学学長、前東北大学総長）
第3回	横 文彦（建築家）
第4回	小平桂一（国立天文台台長）
第5回	宮本 輝（芥川賞受賞作家）
第6回	唐津 一（東海大学教授）

敬称略

貸借対照表 (2002年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	5,114,971	流 動 負 債	1,947,562
現 金 預 金	1,035,363	支 払 手 形	675,782
受 取 手 形	327,775	買 掛 金	282,491
売 掛 金	2,532,484	一年以内返済長期借入金	366,420
有 価 証 券	80,525	未 払 金	161,756
製 品	19,479	未 払 費 用	124,957
原 材 料	429,357	未 払 法 人 税 等	34,781
仕 掛 品	278,598	前 受 金	16,859
貯 蔵 品	28,366	賞 与 引 当 金	227,014
前 払 費 用	199,022	そ の 他	57,499
未 収 消 費 税 等	60,739	固 定 負 債	1,058,584
繰 延 税 金 資 産	118,949	長 期 借 入 金	727,550
そ の 他	6,815	長 期 前 受 収 益	15,000
貸 倒 引 当 金	2,506	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	316,034
固 定 資 産	4,973,742	負 債 合 計	3,006,146
有 形 固 定 資 産	3,029,154	資 本 の 部	
建 物	1,070,986	資 本 金	666,800
構 築 物	129,077	資 本 金	666,800
機 械 及 び 装 置	145,748	法 定 準 備 金	3,430,900
車 輛 運 搬 具	273	資 本 準 備 金	3,264,200
工 具 器 具 備 品	372,125	利 益 準 備 金	166,700
土 地	803,912	剰 余 金	3,504,989
建 設 仮 勘 定	507,030	任 意 積 立 金	2,500,000
無 形 固 定 資 産	268,132	別 途 積 立 金	2,500,000
特 許 権	1,828	当 期 未 処 分 利 益	1,004,989
ソ フ ト ウ ェ ア	258,544	(当 期 損 失)	(179,218)
電 話 加 入 権	7,386	評 価 差 額 金	52,389
水 道 施 設 利 用 権	374	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	52,389
投 資 等	1,676,455	自 己 株 式	572,511
投 資 有 価 証 券	996,151	資 本 合 計	7,082,567
子 会 社 株 式	192,352	負 債 及 び 資 本 合 計	10,088,713
出 資 金	186,150		
長 期 貸 付 金	1,110		
敷 金 ・ 保 証 金	75,525		
長 期 繰 延 税 金 資 産	195,599		
そ の 他	29,566		
資 産 合 計	10,088,713		

- (注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
 2. 有形固定資産減価償却累計額 3,004,724千円
 3. 保 証 債 務 261,770千円

損益計算書 (自 2001年4月1日 至 2002年3月31日)

(単位：千円)

科 目		金	額	
經常損益の部	営業収益		7,718,441	
	売上高	7,718,441		
	営業費用		7,712,922	
	売上原価	5,059,066		
	販売費及び一般管理費	2,653,856		
	営業利益		5,519	
	営業外損益の部	営業外収益		198,886
		受取利息	3,927	
		受取配当金	135,868	
		不動産賃貸収入	45,822	
その他収益		13,267		
営業外費用			62,673	
支払利息		13,854		
不動産賃貸費用		25,544		
賃貸資産修繕費用	9,000			
その他費用	14,273			
経常利益		141,732		
特別損益の部	特別利益		2,423	
	貸倒引当金戻入益	2,423		
	特別損失		364,138	
	固定資産除却損	15,889		
	投資有価証券評価損	233,598		
退職給付会計基準変更時差異費用処理額	114,651			
税引前当期損失			219,983	
法人税、住民税及び事業税			23,757	
過年度法人税等戻入額			34,507	
法人税等調整額			30,014	
当期損失			179,218	
前期繰越利益			1,195,243	
中間配当額			11,035	
当期末処分利益			1,004,989	

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位：円)

科 目	金 額
当期末処分利益	1,004,989,135
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金	10,535,200
(1株につき1,000円)	
合 計	10,535,200
次期繰越利益	994,453,935

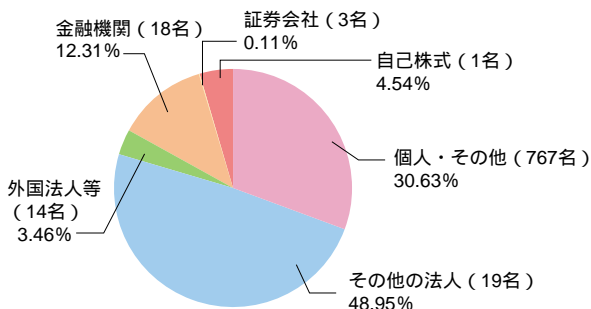
(注) 2001年12月14日に11,035,200円(1株につき1,000円)の中間配当を実施いたしました。

株式の状況 (2002年3月31日現在)

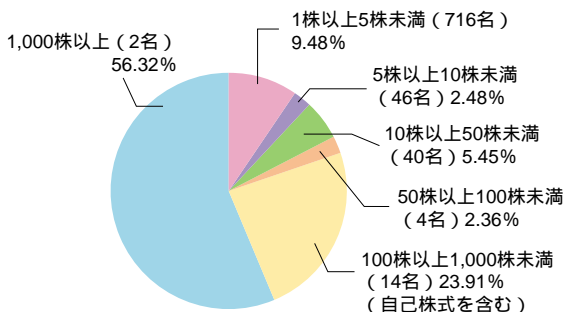
会社が発行する株式の総数 44,000株
 発行済株式の総数 11,036株
 株主数 822名

株式の分布状況

(1) 株式所有者別分布状況



(2) 所有株数別分布状況



大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
株式会社光電製作所	5,090株	46.12%
伊藤光昌	1,126株	10.20%
UFJ信託銀行株式会社(信託助定A口)	515株	4.66%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	248株	2.24%
帝人製機株式会社	209株	1.89%
所 敦 夫	139株	1.25%
所 洋 介	125株	1.13%
伊藤良昌	120株	1.08%
株式会社UFJ銀行	120株	1.08%
加藤友木子	118株	1.06%

当社は、自己株式500.8株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

株主メモ

決算期 株主総会 利益配当金	毎年3月31日 毎年6月に開催いたします。 決算期現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主並びに端株原簿に記載または記録された端株主にお支払いいたします。
中間配当金	中間配当を実施するときは9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主並びに端株原簿に記載または記録された端株主にお支払いいたします。
基準日	3月31日 そのほか必要あるときは、取締役会の決議により、あらかじめ公告して、基準日を定めます。
株式名義書換	
(1)名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 みずほ信託銀行株式会社
(2)同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先) (電話お問合せ)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0570-000324(専用ダイヤル) (03)3642-4004(代表)
(3)同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほアセット信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

証券ハーモニックドライブ・システムズ

〒140-0013 東京都品川区南大井六丁目25番3号
TEL 03-5471-7800
ホームページ・アドレス <http://www.hds.co.jp/>